

特別国民体育大会(2023年度鹿児島国体)選手選考基準 追加訂正版

一般財団法人大分陸上競技協会強化委員会国体強化

1. 国民体育大会代表選手数とエントリーについて

- (1) 国民体育大会の陸上競技大分県代表選手数は男子19名・女子19名以内の男女29名以内である。
- (2) 成年男子三段跳・成年女子5000m競歩・成年女子棒高跳は少年区分からもエントリーできる。
- (3) 男女混合マイルのチーム編成は男女2名ずつとし、男女とも少年ABから各1名、残りの男女は全てのカテゴリーを対象に選出できる。
- (4) 成年少年男女4×100mRのチーム編成は、成年、少年A、少年Bの選手を各1名と、残りは全てのカテゴリーを対象に選出できる。

2. 派遣標準記録突破期間について

- (1) 次の種目は競技特性を考え、派遣標準記録は2022年(令和4年)11月から2023年(令和5年)7月8日(土)までを突破期間とする。
 - ①成年男子10000m競歩
 - ②少年男子共通5000m競歩
 - ③成年女子5000m競歩
 - ④成年女子5000m
 - ⑤少年男子A5000m
 - ⑥少年女子A3000m
- (2) (1)以外の種目の派遣標準記録は2023年(令和5年)1月から2023年(令和5年)7月8日(土)までを突破期間とする。

3. 選手選考は、次の内容で選手を選考する。

- (1) 派遣標準記録A突破者で大分県代表選手に適切と判断できること。
- (2) 派遣標準記録B突破者で大分県代表選手に適切と判断できること。ただし、成年種目はB標準記録を設定しない種目がある。
- (3) 成年少年共通女子4×100mRは、強化種目として他種目より優先的に選手を選考する。
- (4) 成年男女300mは派遣標準記録を突破している選手がいない場合、男女200m及び400mで日本陸上競技選手権入賞者がいた場合は、最上位の選手を選考する。
- (5) 次の成年種目は、過去の国体でのエントリー選手数が少ない傾向にあり、出場すれば他種目より得点の可能性が高くなるが見込めるため、派遣標準記録Bを突破すれば選手を選考する。
 - ①成年男子3000mSC
 - ②成年女子800m
 - ③成年女子5000m
- (6) 次の少年B種目は、標準B記録を突破しない限り選手を選考しない。
 - ①男子110mH
 - ②女子100mH
 - ③男子円盤投
 - ④女子円盤投
- (7) 派遣標準記録A・Bを突破した選手を優先的に選考するが、それ以外の選手については次のように選考の際に考慮する場合がある。
 - ①日本選手権・織田記念・兵庫リレーカーニバル・静岡国際・関東インカレで入賞及び九州インカレ優勝の選手は派遣標準記録突破と同等の扱いとする場合がある。
 - ②その他、国際大会や全国大会での活躍が顕著な選手がいる場合。
(国内クロスカントリー大会・マラソン・ハーフマラソン・ロードレース・大阪室内陸上)

- (8) 派遣標準記録 AB を突破していない少年・成年選手で、同年ランキング上位の選手を選考する場合がある。
- (9) 同一少年 A 及び少年共通種目で派遣標準記録 A を複数の選手が突破している場合、直接対決の結果を参考に選手選考を行う場合がある。

(県高校総体・IH 北九州地区予選会・国体標準記録チャレンジ記録会の通算成績とする。)

- (10) 男女混合マイルは、入賞した実績とチームの総合力が問われる種目であるためチームを編成するが、リレーのみでの選手選考は行わない。個人種目での競技力を総合的に判断して選手を選考する。トラック種目で代表に選考された場合、その全員が出走する可能性があることを承諾すること。

4. その他

- (1) 原則、「第77回大分県陸上競技選手権」または「国体標準記録チャレンジ記録会」に出場していることを選考条件とする。
- (2) 選考された選手は、当方が実施する強化練習会及び強化合宿等・メディカルチェックに必ず参加すること。
- (3) 選考された選手が、怪我や病気で長期的に練習を休養して国体出場に向けての準備が調わない場合や、メディカルチームのメディカルチェックによりドクターの診断で出場に際して前向きな見解が得られない場合は選手を変更する場合がある。
- (4) 怪我や病気など練習や競技に支障をきたす状況（3日以上通常練習ができない等）になった場合は、国体監督に必ず連絡すること。
- (5) 「大分県代表に適切と判断できる選手」とは、アスリートとして必要な資質を有し、競技に取り組む姿勢はもとより身だしなみ（服装や頭髪等）も含め生活態度全般も他の選手（競技者）の模範となり得る選手。そして、県民の皆様方より心から応援していただける選手を指す。

5. 代表選手の決定

- (1) 選手の決定は、7月中旬の大分陸上競技協会理事会で内定する。それ以降のエントリー選手変更（怪我・故障等）については、監督を中心とする国体スタッフ並びに大分陸協強化委員長と協議し、大分陸上競技協会専務理事の承認を経て監督判断のもと選手変更の決定をする。
- (2) 全日本インカレ、インターハイ、全日中の結果により、代表選手に決定している選手よりも著しく好成績を収めた選手がいた場合、その該当種目に限り選手を変更する場合がある。

6. 選手選考における見解や方向性の追加事項

- (1) 開催県より成年少年共通男女4×100mRと男女混合4×400mRの競技日程が重なる可能性があることと連絡があったことから、リレー種目における選手選考は状況を把握して弾力的に選考する。
- (2) 日本選手権は国内で最もレベルの高い大会であることから、その大会に出場を果たした選手で国体出場の意志が強くあり、大分県代表選手に適切と判断できる選手は日本選手権で入賞していなくても選考する場合がある。
- (3) 国体は出場するのみならず、他競技を含めた「チーム大分1000点獲得」の目標を達成するため陸上競技も1点でも多くの得点を目指して最強チームを編成する必要がある。上記、選手選考基準に沿って選手を選考すると共に、上級大会での結果を考慮して選手選考を行うことがある。